



<特集>

「平成19年度 まちづくりシンポジウム」を開催

「まちづくりシンポジウム」は、まちづくりに功績のあった団体・個人に対する表彰を行うと共に、まちづくりや景観に関する講演やパネルディスカッション等への参加を通じて、県民のまちづくりに対する意識の高揚を図るとともに、まちづくりへの積極的な参加促進を目的に、昭和61年度から毎年開催しております。

今年度は、「わがまちの景観まちづくり」をテーマに、石岡市中央公民館「大講堂」で12月1日（土）に開催し、多くの皆様にご参加いただきました。



【プログラム】

◆平成19年度 茨城県うるおいのあるまちづくり顕彰事業表彰式

うるおいのあるまちづくり顕彰事業は、まちづくりについて県民の皆さまのご理解とご協力を得ることを目的として、うるおいのある景観や優れた住環境の整備、各種のまちづくり活動の実践など、まちづくりに功績のあった方々を毎年表彰しているものです。

平成19年度は、まちづくりグリーンリボン賞5件、まちづくりグッドサイン賞1件が表彰されました。

《まちづくりグリーンリボン賞》

- ◎水戸市子育て支援・多世代交流センターの建設
受賞者：水戸市
- ◎多賀市民プラザの建設
受賞者：日立市
- ◎潮来市立図書館の建設
受賞者：潮来市
- ◎行方市観光物産館「こいこい」の建設
受賞者：行方市
- ◎環境に配慮したまちづくり事業
受賞者：茨城県景観整備機構
茨城県建築士会桜川支部

《まちづくりグッドサイン賞》

- ◎龍ヶ崎市中心市街地区の案内板
受賞者：龍ヶ崎市



◆基調講演「街・田園連携の景観まちづくり」

講師：小場瀬 令二 氏

(筑波大学 社会工学類長 教授)

小場瀬先生からは、先進事例や成功例などの紹介をおりまぜながら、景観に配慮したまちづくりの大切さについてお話いただき、石岡にとって誘客効果（マグネット）をもつ魅力を創出する必要があるなどのアドバイスをいただくなど、非常にわかりやすく、ためになる内容であったと多くの方々から感想をいただきました。

〔講演内容〕

- (1) 景観に関する意識調査
- (2) 集客景観の等級
 - S級景観, A級景観, B級景観, C級景観
- (3) S級景観
- (4) A級景観
- (5) 景観は10年, 風景は100年, 風土は1000年
- (6) エコミュージアム
- (7) 石岡は何をなすべきか
 - ・マグネットを創造する
 - ・街と山麓を結びつける
 - ・筑波山山麓観光の一役を担う
 - ・景観委員会のアドバイスを受ける
 - ・B級景観マニュアルの利用



集客景観の等級

S級景観＝それだけで観光資源になる

白川郷→世界遺産 スイスの街と農村

A級景観＝マグネットと景観が組み合わされて集客資源になる

黒川温泉, 小布施, 黒壁, おかげ横丁

B級景観＝マグネットも無く部分的な景観形成に止まって集客力が十分でない

C級景観＝景観では人が集まらない景観

ファーストフード景観

◆パネルディスカッション

「わがまちの景観まちづくりについて」

・コーディネータ 小場瀬 令二 氏

・パネラー

島田 哲 氏

(NPO法人まちづくり市民会議前理事長)

鈴木 俊勝 氏

(やさと茅葺き屋根保存会事務局長)

脇田 憲司 氏

(株JTB法人東京プロモーション営業局長)

鈴木 信充 氏

(石岡市都市建設部都市計画課長)

石岡の景観活用の課題や問題点等を取り上げながら、今後どのような方向性を持って進めていけばよいのかについて、様々な角度からご意見をいただきました。



○おわりに

本県は、長大な海岸線や霞ヶ浦、筑波山など変化に富んだ美しい自然と、鹿島神宮や偕楽園をはじめとする様々な歴史的・文化的遺産など優れた景観を有しています。こうした多様な県土の景観は、わたしたち県民の共有の財産であり、魅力的な地域づくりを行うためにはこれを守り、つくり、育て、さらに美しいものとして次世代へ継承していく必要があります。

今回のシンポジウムでは、地域資源を活用したよい景観まちづくりに取り組み、個性的で魅力あるまちをどのようにつくっていくかを皆さんと一緒に考えてみました。

結果は多くの方々に参加して頂き、また非常に有意義であったとのご意見も多く聞くことが出来ました。

参加して頂きました皆様そしてこのシンポジウムに協力頂きました皆様ありがとうございました。

今後も県内各地をまわりながら、社会情勢に応じたテーマを設定し、シンポジウムを開催していきたいと考えております。

(都市計画協会事務局)